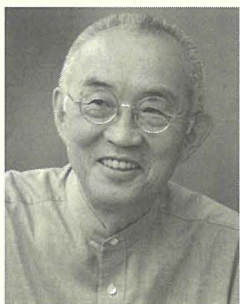


浮利を追求しない 実体経済への回帰

東京大学名誉教授
つきおよしお
月尾嘉男



破綻した賭博経済理論

サブプライムとは優良ではないという意味である。余剰資金の投資対象を発見できない金融機関が、住宅が値上がりする場合にのみ、転売して返済可能となる低所得層の人々に無理な融資をしていたのがサブプライムローンである。しかし、期待のように住宅は値上がりせず、当然の帰結として破綻した。それが金融機

関の破綻で完結するのであればともかく、世界全体が恐慌に突入するという迷惑千万な事態に拡大したのが現在である。

経済の基本は物々交換であるが、その交換を便利にするために通貨が発明された。通貨はモノやサービ스에 転換されたとき本来の価値を発揮するが、投資や投機は通貨が通貨を増大・減少させるだけであり、社会に実質の価値をもたらさない。浮利

の世界である。しかも、世界全体の実体経済の総額は約五〇兆ドルであるのに、浮利の世界は桁違いの二〇〇兆ドルとも推定され、これが世界経済を賭場に metamorphose させている元凶である。

ノーベル経済学賞を受賞したマイ

ロン・シヨールズとロバート・マーティンの二人の経済学者の発明したデリバティブ理論を背景とするレバレッジ理論は、簡単に説明すれば借金を担保に借金をして資金を増大させる「花見酒」経済学の極致であるが、二人が顧問をしていた投資会社 LTCM が実践して破綻し、シヨールズ自身が設立したファンド会社も破綻するという事態になり、ノーベル経済学賞を見直すという議論まで登場している。

注目されるイスラム金融

このような賭博経済が世界を破綻させた現在、イスラム金融が注目されはじめている。イスラムの教義を墨守し、豚肉、酒類、色事などに関連する商売に投資しないのは当然として、利子を禁止し、デリバティブ商品も賭博の一種であるとして禁止するという金融制度である。そして金融機関はイスラムの法律学者で構成される諮問会議を設置し、資産運用や資金調達に教義に違反しないかの判断を委任するという仕組みで運用されている。

一例として、住宅を購入したいという顧客からの融資の依頼があると、金融機関が住宅を先行取得し、顧客は家賃として返済しながら利用し、完済した段階で所有する。このような方法であれば、住宅という実体が通貨を裏打ちしているからサブプライムローンの参入の余地はない。賭博金融の対極にあるイスラム金融の資産総額は約七〇〇〇億ドルとされるが、今回の破綻以来、注目されはじめ、総資産額は拡大の一途である。

実体経済に回帰すれば景気は回復

一九二九年一〇月、やはりアメリカが発端の世界恐慌が発生したが、それを実体経済に回帰させることにより景気回復に成功した事例がある。オーストリアのヴェルグルという地方都市は不況脱出のために、失業している市民を公共事業で雇用し、賃金を市内でしか通用しない労働証明証書で支払う対策を実施した。この証書は時間とともに価値が減額していく仕組みのため、人々は次々に買物や納税に使用し、地域経

済は短期で回復した。

このヴェルグルの奇跡は世界から注目され、恐慌の元凶アメリカの経済学者さえ調査に訪問した。しかし、この証書は国家の専管である通貨に相当するとオーストリア中央銀行が提訴し、結局、一年もたたずに中止となり、ヴェルグルは再度、失業比率三〇%近くに逆行した。しかし、この精神は現代にまで継承されている。日本や世界の各地で発行されている地域通貨である。定額給付金などに依存しなくとも、地域は自立可能なのである。

八〇年前のニューヨーク株式市場の暴落が発端となった世界恐慌直前の有名な逸話がある。ケネディ米大統領の父親ジョセフ・ケネディは、ニューヨークの街頭で靴磨きの少年から株式相場の行方を質問され、このような子供まで投機に関心があるような事態は尋常ではないと手持ちの株式をすべて売却し、恐慌の影響を回避した。この八〇年前の故事を想起し、ビジネスは浮利を追求しない実体経済に回帰することが重要である。